

第3回

岐阜市幼児教育推進プラン検討委員会

第2回会議のまとめ等

令和元年11月13日

幼 児 教 育 課

○第2回会議で出された視点・論点①～⑥	・・・3～8
○たたき台からの主な追記・修正箇所	・・・9
○個別論点	・・・10
○資料2－11Pのチャートに関するその他の案	・・・11
○策定・公表に向けた経過と予定	・・・12

第2回会議で出された視点・論点①

○ 認知能力と非認知能力について

非認知能力

・今、言語化されたただけであって、今までも保育の世界で培ってきたものだ。子どもが遊びや体験を通じて自然に学んでいく。だから見えなくて、見えないものだから大事。

保護者の意識

・保護者の方は、やはり受験が気になるので、学年が上がれば上がるほど、認知能力に意識が向かっていく。
・幼児期から習い事ばかりという流れに対しては、この委員会は流されないための発信をしていく必要がある。

バランス

・非認知能力が大事ということが、認知能力が大事でないわけではないことを押さえておかなければならない。遊びの中の学びで育つものは、学びに向かう力や体を動かすことによる学びなど多様であって、その中には認知能力もあるということのバランスが大事。

表現

・非認知能力を育てるためという部分が前面に出てきているが、現場の先生の実感と異なるのではないか。目の前の子どもがどうしたら遊び切れるのか、けんかをうまく解決できるのかを考えていて、その積み重ねが非認知能力につながる。

第2回会議で出された視点・論点②

○ 遊びの中の学びについて

遊び＞学び

- ・子どもが主体的・自発的に関わっていく遊びを通して、体験を積み重ねていく中で、協同性や自立性や様々な姿が育つ。
- ・子どもが環境に関わっていく中で、その結果として、健康な心と体が育ったり、思考力の芽生えが育ったりする構造にしなければならない。

体を動かす

- ・子どもたちの興味・関心を前提として環境に働きかけていくものとして、遊びの中の学びの中に、体を動かすことも強調していくことは良いのではないか。
- ・幼児の特徴として直接体験を大事にしたい。前提として、子どもが主体的に環境に働きかけるところから、外で動き回ったり、指先の細かい動きが育っていく。
- ・遊びの中で体幹が鍛えられることで、学校でまっすぐ座れるようになるという効果がある。

保育の理念

- ・0歳からの小学校就学前までの子どもの育ちを見据えながら、そのときそのときに必要な遊びを提供して、その中で体力的なものも培っていくことが保育所の保育だ。

10の姿

- ・子どもの意図と関係なく身につけなければいけないもの、到達目標ではないので、書きぶりに注意が必要だ。一方で、遊びを通して育っていますというだけでなく、保育者は、その先の育ちの可能性を考えて、体験や環境を用意していくことも大事ではないか。

第2回会議で出された視点・論点③

○ 保護者に伝えたいことについて

子ども理解

・子ども理解がないと遊び込む姿をイメージすることは難しいが、保護者に伝えようと思うと、あらゆるチャンネルを使っていかないと伝えられないのではないかな。

見えない教育

・見えない教育である部分を、説明する必要があるのではないかな。見えない部分は非認知能力が育っていく時期で、それが土台となって認知能力が育っていく。

けがやけんか

- ・保護者も子どもと共に育っていく。親として育っていく中で、遊びや体験に伴うけがやけんかも学びの一環であるということを、伝えていかないといけない。
- ・教育の場だからこそ、けがもあるし、けんかもする。それが子どもの学びの場だし、育っていくプロセスだということを保護者にしっかりと伝えていかないといけない。
- ・子どもにはけがをする権利があるという捉え方もできる。小さなけがをする中で、大きなけがにつながる身のかなし方を学ぶことができる。
- ・子どもにとってのけがの意味を、例えば市からの情報提供としてもあると、園から保護者に伝えやすくなるのではないかな。

第2回会議で出された視点・論点④

○ 保護者への情報発信について

現状理解

・けんかやけがに保護者の方が敏感になっていることはすごく感じる。また、非認知能力よりも認知能力を重視される保護者の方がみえるということも感じる。

園から

・それぞれの園でできる範囲で、積極的な保護者向けの情報発信が必要だ。
・これからの保育者には、子どもがどのように見えない力を身につけていくかを、見える化して伝える力が求められるのではないか。そのための様々なツールもあるため、活用しながら様々なチャンネルを用いて保護者に伝えていく工夫が必要だ。

試行錯誤

・これが正解ということはないので、様々なアクションをして、保護者の方に興味を持っていただけると良い。
・様々な方法で保護者を巻き込んで、子育てに関することや、保護者同士のコミュニケーションができていくことが、子どものためになっていくのではないか。
・非認知能力が大事だということは分かるが、それを保護者の方にどのように理解を求めて、子どもの育ちのために保護者の方に頑張ってもらいたい部分を伝えていくのは難しい時代だと感じている。

第2回会議で出された視点・論点⑤

○ 親育ちの支援について

子どもの 育ち

・子どもは教科書に書いたような育ちをしない。そこで保護者はがっかりしてしまうかも知れない。そこを支えていくのは、大きな仕事だと考えている。

順を追って

・親育ちと一言で言っても、生まれてから乳児期、幼児期へと段階がある。どのように親が育っていくのか、学んでいくべきなのかを提案できると良い。

・長子を妊娠しているときに、多くの方は勉強に対するモチベーションが高い。妊婦さんを対象としたプログラム等や、マタニティクリニックとの連携も考えられる。

第2回会議で出された視点・論点⑥

○ その他

地域・社会

・保護者だけでなく、色々な人が学校に関わるという視点が大事だ。子どもを地域全体、社会全体で育てていくことが望ましい。

父親

・調査において母親に比して父親のネットワークは限られている。配偶者とだけになっている場合が多い。
・父親の子育てネットワークをいかに広げるかは、園や地域でできることがあるのではないか。

キャリア教育

・今の若い方たちに、幼稚園や保育園の先生になりたいと思ってもらえる取り組みができると良い。

たたき台からの主な追記・修正箇所

該当ページ	追記・修正概要
全体として	たたき台において示したスライドの流れを踏まえつつ、最終アウトプットに近い形態(冊子・20ページ程度)に編集した。
4P下段	非認知能力に関する説明を追記した。
6P下段	多様な育ちの場(人)のデータに関する説明の中で、認可外保育施設(企業主導型保育事業を含む。)に関する記述を追記した。
7P上段	保育利用状況の推移と見込みに関するデータ等を追記した。
8P下段	家庭での子育てについて、妻と夫の家事・子育て時間に関する国際比較のデータ等を追記した。
9P上段	基本的な取り組み姿勢に関する記述を追記した。
11P下段	遊びの中の学びに関する記述において、非認知能力を育むためとしていた部分を削除し、遊びと学びの関係性を平易に表す記述とした。また、チャートについて、遊びの中に学びが含まれることを表すものへと修正した。また、市ウェブサイトに関連ページを設けることとして、誘導するためのQRコードを追記した。
12P下段	けがやけんかの捉え方に関する記述を追記した。
13P下段	インクルーシブ教育に関する記述を追記した。
16P中段	アタッチメントに関する記述を追記した。
16P中段	親育ちに関する記述等を追記した。
17P中段	私学振興補助金に関する記述を追記した。
17P下段	公立幼稚園の今後の在り方に関する記述を追記した。

個別論点

○ 全体に関するご意見の他、下記の個別論点について協議をお願いいたします。

遊びの中の 学び

遊びの中の学びについて、チャートを修正(資料2-11P)しました。
また、次スライドに、その他案をご提案していますので、ご意見をお願いします。
なお、具体例に関しては、市ウェブサイトに参加となる情報(動画等)を集約して公表し、
リンク情報をQRコードにてご案内したいと考えています。

けんかや けが

資料2-12Pに、けんかやけがについて、
学びの機会でもある旨を伝える記述を追記しました。
書きぶり等についてのご意見をお願いいたします。

公立幼稚園 の在り方

現在、2園設置している公立幼稚園について、
幼児教育課では、時代に則した在り方を研究しています。(資料2-17P)
本市の公立幼稚園に期待すること等について、ご意見をお願いいたします。

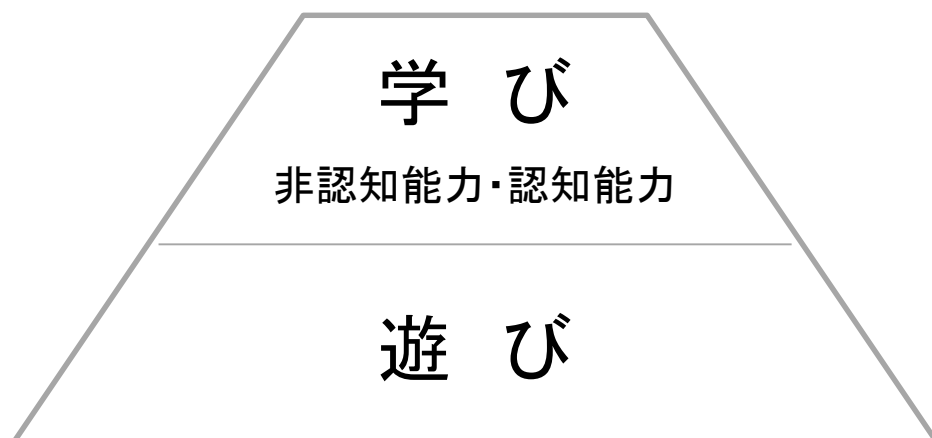


今回のご意見などを受けて、プランの案を固め(委員長一任)、
パブリックコメント実施のために公表(12月2日~)します。

資料2-11Pのチャートに関するその他の案

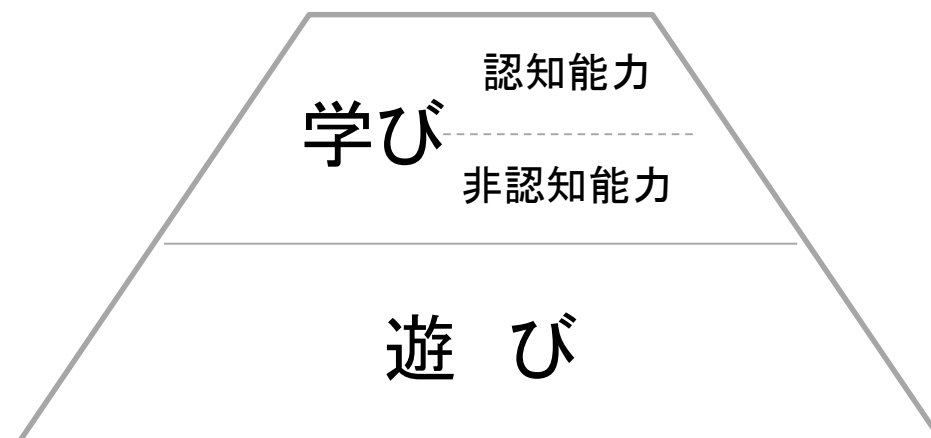
○ 資料2-11P掲載の「遊びの中の学び」のチャートに関するその他の案をご提案します。

—B案—



- ・上下の構造を取り入れることで、遊びと学びの関係性をより明確化

—C案—



- ・B案から、非認知能力と認知能力の関係性についても上下の構造を取り入れたもの

策定・公表に向けた経過と予定

